

令和6年度事業評価書（令和5年度事業）

評価事項	評価項目	評 価	評 価 内 容
教養文化の向上	量的な視点からサービスは適切に行われたか。	<div>適切に行われた</div> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	コロナ前の水準に戻りつつあり、年間開催数が大幅に増加している。
	質的な視点からサービスは適切に行われたか。	<div>適切に行われた</div> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	「まちなかアートフェス」に参加して地域の芸術活動と連携し、地域の文化事業に貢献している。新規個展や新企画のワークショップなど新しいコンテンツを提供している。
	地域的な広がり、維持が適切に行われたか。	<div>適切に行われた</div> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	地域の企業と連携した商品企画ワークショップを、小中学生を対象に実施し、企業と連携した体験学習の場を提供している。
	ステップアップ促進が適切に行われたか	<div>適切に行われた</div> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	地域密着型次世代育成事業、新規講座開講、新規講座講師による展示会等、地域の芸術活動を維持・継続するための取り組みが実施された。
情報発信	量的な視点から適切に情報発信が行われたか。	<div>適切に行われた</div> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	「あすと子ども通信」では1回 8000 通を年4回配布、広報誌や Facebook、ホームページや SNS を活用した情報発信が実施されている。
	質的な視点から適切に情報発信が行われたか。	<div>適切に行われた</div> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	チラシデザインの工夫、公式 LINE の活用により、文字・画像メッセージで情報提供し、見やすさを意識している。
	情報発信の方法は、適切であったか。	<div>適切に行われた</div> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	「あすと通信」等のチラシ、広報誌、ホームページでの広報に加え、SNS を活用して幅広い年代のアクセスを意識して情報発信がなされている。
地域支援	量的な視点から適切に地域支援が行われたか。	<div>適切に行われた</div> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。	地域支援事業の2団体が高齢化のため解散されたが、1つの団体が新規支援に加わり、昨年度並みの支援が実施された。
	質的な視点から適切に地域支援が行われたか。	<div>適切に行われた</div> <div>ほぼ適切に行われた</div> 適切とは言えない。	シーバスパークができたこと、高齢化による地域支援団体の減少、講師の高齢化、アカデミー受講者の減少等が生じて

地域支援			おり、講師の選定や新規講座の設定など今後の事業展開に工夫が必要となると予想される。
	地域支援の方法は、適切であったか。	<div>適切に行われた</div> <p>ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。</p>	支援団体の活動に、広報面、運営面等の様々な側面から支援が実施されている。また「まちなかアートフェス」に参加して地域の芸術活動と連携し、地域の文化事業に貢献している。
市民ニーズへの対応	市民ニーズの把握と満足度向上への取り組みは適切に行われたか。	<div>適切に行われた</div> <p>ほぼ適切に行われた 適切とは言えない。</p>	SNS の活用、利用者へのアンケートを電子化する等、今後の展望を踏まえた工夫が考えられている。
事業計画とコンセプトとの整合性	策定された事業計画は、文化の自分化創造館を実現する・具体化する取り組みとして適切であったか。	<div>適切</div> <p>ほぼ適切 適切ではない</p>	文化芸術の活動・発信拠点として、地域との交流による芸術活動・次世代育成の環境づくりとして、次世代人材育成の拠点として、若手アーティストや講師を支援する活動や、小中学生を対象とした地域基盤のワークショップなどが実施されており、文化創造のための具体的な取り組みとして適切である。
	策定された事業計画の実施によって具体的な成果（アウトカム）が上がっているか。	<div>上がっている</div> <p>どちらとも言えない。 上がっていない。</p>	ダンスイベント運営など、イベント型アウトリーチも実施されており、地域が活性化されている。 またアーティストバンクの設立についても協議され、具体化されつつある。
	PFI 事業者の実施体制は、文化の自分化創造館を実現する・具体化する取り組みとして適切であったか。	<div>適切</div> <p>ほぼ適切 適切ではない</p>	若手アーティストや講師を支援する活動や彼らのバンク登録、小中学生を対象とした地域基盤のワークショップなどが実施されており、事業者と一体となった事業運営がなされている。

事業についての講評

昨年度と比較して、講座の男性参加者数が増えており、参加者の年齢も 7～9 才、20～39 才で増加しており、より幅広い属性の参加者が得られていることが評価すべきポイントである。小中学生の参加型ワークショップの実施も、社会教育の機会が学齢期の市民にも広がるいい取り組みとなっており、地域文化や芸術の発信源としての機能が十分に発揮された成果であると考えられる。今後も、幅広い年代や性別の市民にとって、文化芸術の学びの中心として機能して欲しい。

一方、講師の高齢化による講座の閉講や地域支援団体の減少が生じるなど、市民の高齢化の影響が見受けられるので、幅広い年代や性別の市民のニーズを捉えた講座やイベントの実施について、今後も検討が求められるだろう。

PFI 事業者への提言、提案など

幅広い年代や性別の市民のニーズを捉えるためにも、イベント参加者の意見や感想の結果の活用に加えて、SNS でのアンケート実施などの手段も検討していくことも考えられる。